

平成31年度

経済学部

推薦入試

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
2. この問題冊子は、全部で4ページ、解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚である。試験開始の合図があってから確認すること。
なお、試験問題に文字などの印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れなどがあった場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
3. 試験開始後に、解答用紙の指定欄に受験番号を算用数字で記入すること。氏名を書いてはいけない。
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。解答は、解答用紙の所定欄に記入しなさい。
解答用紙の所定欄以外に記入した解答は、評価（採点）の対象としない。
5. 配布された問題冊子および下書き用紙は、試験終了後、持ち帰ること。

| |
|----------|
| 実施年月日 |
| 30.11.28 |
| 富山大学 |

【問題 1】 次の文章を読んで、[設問 1] から [設問 3] に答えなさい。解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

本章の課題は、このような他の変数の影響を考慮した上で因果関係の推論を行う重要さを考えることにある。ある独立変数（注 1）が、従属変数（注 2）に影響しているという主張をするときには、他の変数の影響を取り除いた上でそのような影響がなお存在することを示す必要がある。

第 1 章で見た光合成実験を再び振り返っておこう。そこでは、同じ朝顔の葉に対して、光の当たり方だけを変えて、それ以外の条件（他の変数）を一定にし、デンプンが生成されるかどうかを検証した。非行と朝食に関する研究と比較して、この実験では他の変数を人為的に統制しようとしている。因果推論として、より厳密であることは明らかである。1 組の 1 卵性双生児を連れてきて、一方には朝食を与え、他方には与えない。それ以外の条件は同じにして、1 年間観察をするならば、同じ程度には他の変数を統制したことになるだろう。しかし、ここには問題がある。このような実験が倫理的な観点から許されない、ということだけではない。いま述べたこれらの実験は、いずれも因果推論を行う方法としてまだ問題を含んでいる。統計学者のポール・W・ホランドが「因果推論の根本問題」として示したのがそれである（Holland 1986, pp. 945-960）。

①この根本問題を理解するために、因果関係が何を意味するかについて再度確認しよう。われわれは、ある原因によって一定の結果が生じるときに因果関係があると言う。より厳密に言うならば、他の条件を変化させずに独立変数の値だけを変化させたときに、従属変数の値がそれに応じて変化する、すなわち因果効果が生じる場合である。前項で述べた実験でこの因果効果は容易に確認できるように思われるかもしれない。しかし、よく考えると、光が当てられた部分と当てられなかった部分とは、同じ朝顔の葉とはいえ、その葉の違う部分である。双子の 2 人も、違う人間である。厳密に因果関係を確認するためには、反事実的（counterfactual）な推論を行わなければならない。こう書くと難しく聞こえるが、要するに、まずは朝顔の葉に光を当ててデンプンの生成を確認し、その後にタイムマシンに乗って過去に遡り、同じ葉に今度は光を当てずにおいて、デンプンが生成されないことを確認する。こうすれば 2 枚の朝顔の葉が持っているかもしれない異なる属性も完全に統制して、独立変数としての光の有無のみを変化させることができる。きわめてシンプルな解決策であるが、もちろん実現はできない。

……中略……

では、われわれはここであきらめるべきだろうか。ホランドは、この問題を解決する方法が二つあると言う。その一つは科学的解決である。先の朝顔を用いた光合成実験について、方法論的に異論が出されることはまずない。それは、朝顔の葉に光が当たれば、デンプンが生成されるということをわれわれが認めており、それを前提にして、葉に光を当てない場合にデンプンが生成されないという結果が出れば、それは光の持つ因果効果を確認したと考えてよいと判断するからである。それまでの科学的知識から、実験に用いられる朝顔の葉の比較対象部分は、いずれも光が当たればデンプンが生成されるであろう同質のもの（単位同質性があるもの）と認めることで問題を「解決」しようとするため、科学的解決と呼ばれる。

もう一つの方法が、②統計的解決である。そこでは、無作為割り付け（random assignment）実験を想定している。先の③朝食と非行の例では、2 人の子どもを連れてきて、一方には朝食をとらせ、他方にはとらせないで、その後の 2 人の行動を観察するという実験を考えた。しかし、たとえ双子であっても 2 人の子どもの間には、朝食をとるかどうかという独立変数以外に、なおいくつもの違いがある。朝

食の影響だけを見ることができないという問題があった。そこで、全国の中学 3 年生から、抽選でそれぞれ 100 人から成る A と B のグループを作る。そして、片方のグループには朝食を与え、他方には与えないで、行動の観察をする。この場合も、A と B は異なるグループであるため、因果推論の根本問題は完全には解決しない。しかし、この二つのグループは、ランダムに選んでいるので性別、身長、性格といったさまざまな属性が、平均してみれば等しくなっていると期待できる。いわば、A も B も、日本の中学 3 年生という母集団の性格を反映した同じようなサンプルになっている可能性が高い。この結果、この実験デザインでは、朝食という独立変数以外の変数は統制されている、と考えることが可能になるのである。

出典：久米郁男『原因を推論する－政治分析方法論のすゝめ－』（有斐閣、2013 年）127～131 頁（問題作成において、文章・見出しなどを一部省略・修正した。）

注 1：計量分析の世界における原因を指す用語。

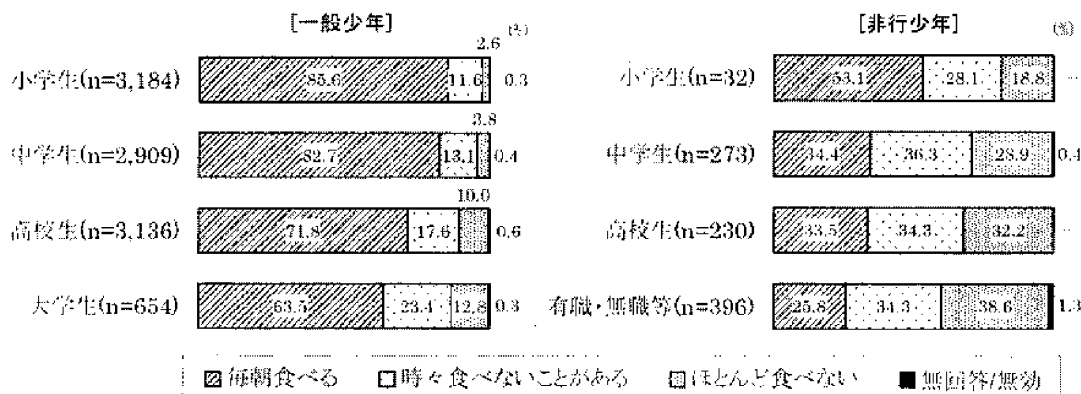
注 2：計量分析の世界における結果を指す用語。

〔設問 1〕下線部①は具体的にどのような問題を意味しているのか、文中の言葉を用いて 45 字以内で説明しなさい。

〔設問 2〕下線部②に関して、統計調査の対象者を選ぶ際に気をつけるべきことは何か、文中の言葉を用いて 65 字以内で説明しなさい。

〔設問 3〕下線部③に関して、ある統計調査によれば、非行少年（なお、ここでいう少年は男子・女子の双方を指す）は一般少年と比較して朝食をとる頻度が低いことが示されている（下記の図参照）。この結果から「朝食をとらない子どもは非行にはしりやすい」という因果関係を主張する者に対して、具体的な論拠を挙げて 400 字以内で反論しなさい。

図 朝食の頻度



出典：内閣府「第 4 回 非行原因に関する総合的研究調査」（平成 22 年 3 月）(<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/hikou4/pdf/2-1-3-3.pdf>) より抜粋

【問題 2】 次の文章を読んで、[設問 1] から [設問 4] に答えなさい。解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

著作物引用箇所のため非公開

出典：William H. Beaver (1998) *Financial Reporting: An Accounting Revolution*, 3rd ed., Prentice Hall, p.153 より抜粋。

注：

management 経営者

maximization 最大化

shareholder 株主

cite 引用する

criterion (判断, 批評の) 標準, 基準

stewardship 受託責任

reinforce 補強する, 増強 (強化) する

liability (義務としての) 責任のあること

Securities Act 米国証券法

compensation 報酬

stock option ストック・オプション (自社株購入選択権)

ownership 所有権

stock price 株価

security price 証券価格

intermediary 仲介者

voluntarily 自発的に

out-of-pocket 金銭的

competitive 競争的な

unilateral 一方的な

disclosure 開示

〔設問 1〕 下線部①の意味について、本文に即して 30 字以内の日本語で説明しなさい。

〔設問 2〕 下線部②を 70 字以内で和訳しなさい。

〔設問 3〕 下線部③の具体的な内容について、本文に即して 40 字以内の日本語で説明しなさい。

〔設問 4〕 経営者は誰のためにどのような行動をとることが求められているか、本文に記述されていることを簡潔に説明したうえで、あなたの考えを述べなさい。ただし、300 字以内の日本語で答えること。

| | | | | | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 受験番号 | | | | | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

平成31年度 富山大学経済学部 推薦入試小論文 解答用紙

(2枚中1枚目)

【問題1】

[設問1] 45字以内

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|---|--|--|--|--|----|--|--|--|--|----|--|--|--|--|----|
| | | | | 5 | | | | | 10 | | | | | 15 | | | | | 20 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| |
|-----------|
| 設問1 得点 |
| |

[設問2] 65字以内

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|---|--|--|--|--|----|--|--|--|--|----|--|--|--|--|----|
| | | | | 5 | | | | | 10 | | | | | 15 | | | | | 20 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| |
|-----------|
| 設問2 得点 |
| |

[設問3] 400字以内

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|--|--|--|---|--|--|--|--|----|--|--|--|--|----|--|--|--|--|----|
| | | | | 5 | | | | | 10 | | | | | 15 | | | | | 20 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| |
|-----------|
| 設問3 得点 |
| |

| |
|-----|
| 総得点 |
| |

下書き用紙